

栗原圏域

(栗原市)

～～豊かな自然や歴史、文化を活かした、くりはら田園観光都市の実現～～

栗原圏域の概要

栗原圏域は宮城県の北西部に位置し、西部には栗駒国定公園の中心である栗駒山がそびえ、東部にはラムサール条約湿地の伊豆沼・内沼が広がっている。当圏域の面積は804.97 km²で県全体の約11%、人口は59,825人（県推計人口/令和6年4月1日現在）で県全体の約3%となっている。

栗原市では、豊かな自然資源や旧奥州街道などの歴史的文化遺産、栗駒山麓ジオパークの取組などを結び付けた観光ルートの構築等により「くりはら田園観光都市」の実現を目指している。



圏域の観光の現状・課題

① 栗原圏域の旅行者の大半が「日帰りの観光」になっている

当圏域は、栗駒山や伊豆沼・内沼などの観光資源に恵まれているものの、観光客が特定の時期に集中する傾向が見られるほか、二次交通の不足等により、日帰りの通過型観光が中心となっている。そのため、滞在型観光につながるよう、観光資源の再評価とさらなる磨き上げや、豊かな自然資源を活用した「アドベンチャーツーリズム」や「ジオツーリズム」などの持続可能な観光コンテンツの造成等に取り組んでいく必要がある。

② インバウンドを含む宿泊観光客数が伸び悩んでいる

全国的に増加傾向にあるインバウンドの誘客に向けた取組が進められているが、言語や多様な食習慣への対応等を含めた受入環境の整備が遅れているほか、圏域の魅力を伝える情報発信力が不足している。

③ 観光客の誘客に向けた広域的な取組が不足している

広域的な観光の推進に向けては、隣接する自治体等と連携した取組を行っているものの、その効果は十分とは言えない状況であり、当圏域へのさらなる誘客に向け、連携を一層強化していく必要がある。

圏域の施策の方向性及び取組

<計画期間で対応が必要な取組>

① 地域資源の活用等による滞在型観光の推進と人材育成

栗駒山や伊豆沼・内沼などの観光資源を最大限に活かした「栗原ならではの」体験を提供できる観光コンテンツの造成に取り組むほか、既存の観光資源の再評価とさらなる磨き上げを通じて、長期滞在に結びつく魅力的な体験プログラムの提供等を行うことで、農泊や民泊を含めた宿泊を伴う滞在型観光を推進する。また、観光ガイドなどの栗原圏域の観光を支える人材育成を行う。

② インバウンド等の受入環境整備と効果的な情報発信

外国人観光客等へのおもてなしの向上に向け、観光施設等における案内表示の多言語化やWi-Fi等の快適な通信環境の整備、ベジタリアン・ハラールなど多様な食習慣への対応強化を含めた受入環境の整備を図るとともに、栗原圏域のさらなる認知度向上に向けて各種媒体を活用した訴求力の高い情報発信を積極的に展開する。

③ 観光客のさらなる誘客に向けた広域的な取組強化

DMO（観光地域づくり法人）や隣県を含む周辺地域と連携し、平泉や仙台・三陸沿岸部と絡めた周遊ルート

を造成するなど、相互に観光資源を補完し合いながら、スケールメリットを活かした戦略的な誘客の取組を推進する。

特色ある観光コンテンツ



「神の絨毯」栗駒山
(栗原市)



マガンの飛び立ち
(栗原市)



栗駒山麓ジオパークビジターセンター
(栗原市)